

徳田の歴史-4 六体地蔵

1/1



徳田墓地の
六体地蔵

徳田墓地入口に六体地蔵が安置されています。

現存する建物は平成11年10月に新しく建て替えられました。

1、六体地蔵とは

これは地蔵さん(地蔵菩薩)です。真ん中の一体は阿弥陀さん(阿弥陀如来)です。形像は地域により多少の違いはあります。

仏教には六道輪廻と言う考え方があり地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上と六道に分かれています。地蔵さんは六体いるのでそれぞれの世界で苦しんでいる人々を救ってくれるのです。(地獄:罪、餓鬼:飢え、畜生:不安、修羅:争い、人間:生きること、天上:有頂天)

2、いつからこの様な信仰が始まったのですか

一般的には平安時代の中頃(11世紀中頃)から浄土教信仰の流行と共にこのような信仰が盛んになってきたようです。このころ京都の鴨川が度々氾濫して水浸しになり疫病が流行し体力のない子供が大勢犠牲になりました。この頃より各地でお地蔵さんを祀るようになったと言われていました。よってお地蔵さんは悲しみを取り除き特に子供達を災難から救ってくれるという考え方になりました。

赤い帽子とよだれ掛けは“子供が元気に育つ”その意味もあるようです。

※主に地蔵さんが安置されている場所はお墓の入口付近や地蔵堂等です。

※この徳田のお地蔵さんは地域の人々やゆかりのある人々によって毎日のように手厚くお守りされています。

※本内容は正念寺さんのお話を参考にしました。